



語れる壁は美しい。



株式会社トヨコー
417-0047 静岡県富士市青島町39
TEL 0545-53-1045 FAX 0545-53-2045
www.toyokoh.com

All rights reserved © 2021 TOYOKOH inc.





PbAt 事業部の MISSION

パブリックアート

情報、モノ、人が世界中を短時間で自由に移動できるようになった今、関係人口^(※1)を増やす鍵は、移動できない物のアイデンティティ（そこに在ることの意味）が握っています。

魅力溢れる景観が実現すれば、その姿や話題は世界中に発信され、多くの人が興味や関わりを持ち、訪れるになります。建物がストーリー性のある変身を遂げれば、価値が上がり、テナントや同様の建物が増えたり、精神衛生が向上するなど、活気を帶びます。こうして経済活動の好循環が生まれると私たちは考えます。

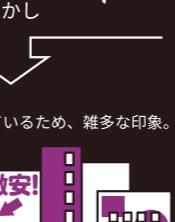
PbAt 事業部は、建物やインフラに対するパブリックアート^(※2)のデザイン提案と塗装による実施を通じ、景観の調和と、地方創生など地域活性化に貢献します。

(※1) 関係人口：拠点を問わず多様な形で地域に関わる人々の数。

(※2) パブリックアート：本来は、公共的な空間に設置される芸術作品を指しますが、ここでは、不特定多数の人の目に触れる部分に施す、その場所独自のストーリー性やメッセージ性があり周辺環境と調和するデザインを意味しています。

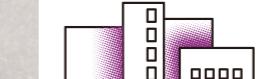
景観＝地域アイデンティティ

ストリートビューや衛星写真の普及
→世界中の景色や建物を360°見られる時代に。
建物を含む景観が
重要な地域アイデンティティに。



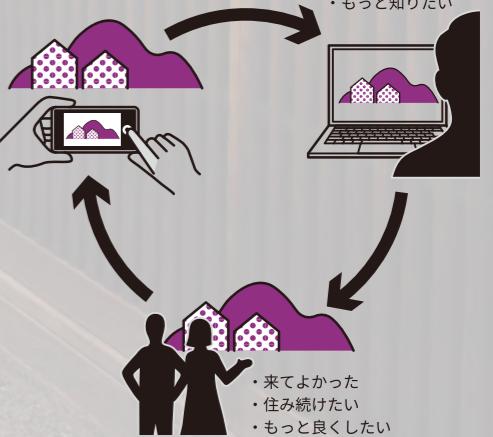
塗装によって
調和させる

その場所だからこそ
施されるべき必然性
のあるグラフィック
を提案、施工。
建屋の保護・延命も
同時に実現。



好循環のイメージ

こんな場所にいます！

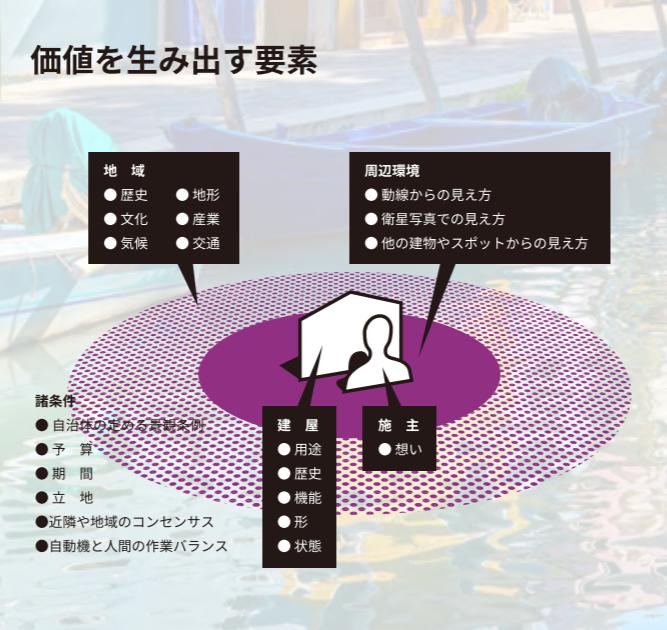




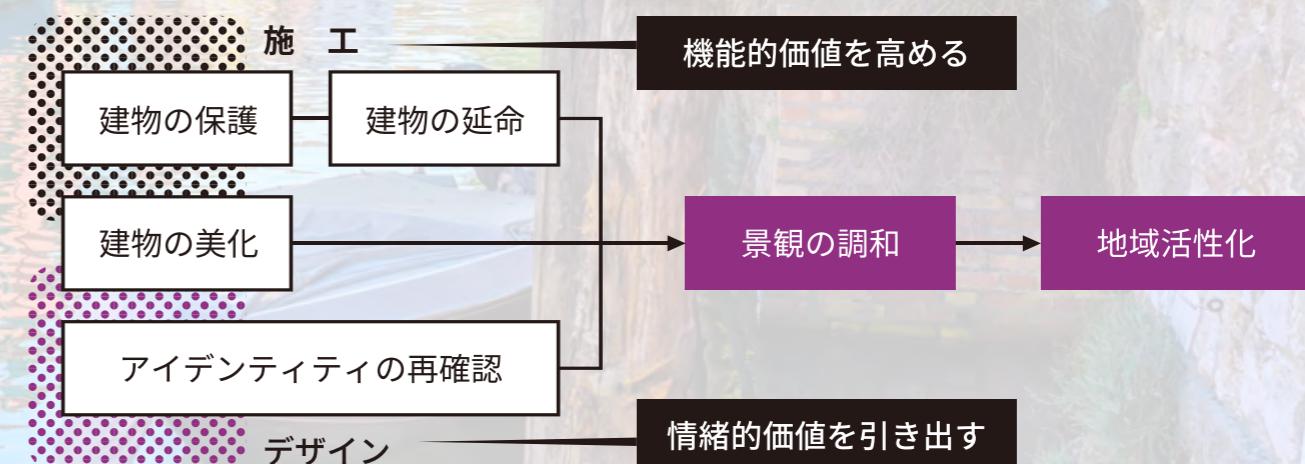
機能的価値 × 情緒的価値

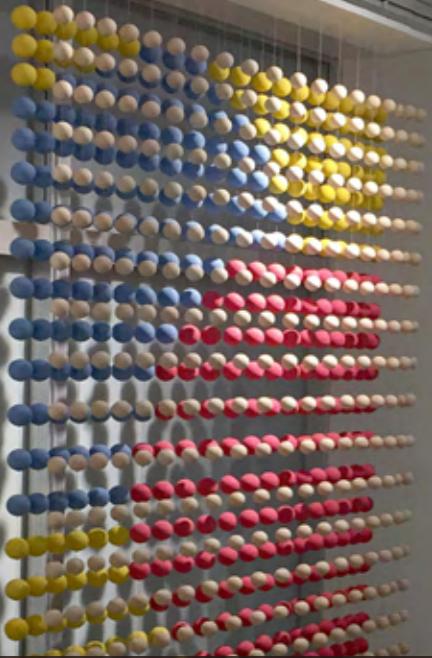
塗装には、保護材として建物の「機能的価値」を高める効果があります。また一方で、表現手法として、えのぐのように、緻密にプランニングされた色による塗り分けや図案によって人の心に響く「情緒的価値」を生み出す力があります。PbAt 事業部は、デザインのプロフェッショナルであるデプスデザイン株式会社との連携により、2つの価値を一度に実現させます。また、スレート屋根延命化の専門家集団である SOEI 事業部とタッグを組み、建物を丸ごと魅力的に生まれ変わらせる事業も開始しました。

価値を生み出す要素



価値創出とその効果



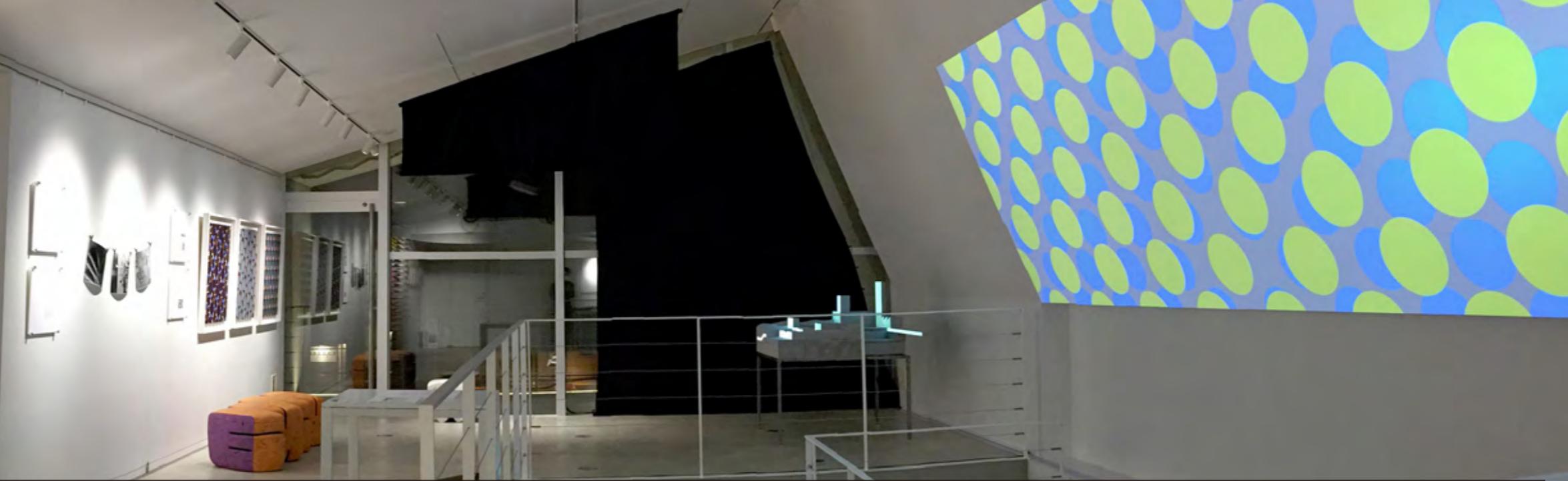


DEPTH DESIGN

デプスデザイン

株式会社トヨコーは、PbAt 事業部のミッション実現における「0から1を生み出す自由な創造力」の重要性を強く認識し、子会社としてデプスデザイン株式会社を設立。公共性の高いプロダクトや、ホテル空間のコンセプトのデザインなどで実績があり、グッドデザイン賞を複数回受賞しているデザイナーの清水慶太をチーフに迎えました。

DEPTH DESIGN は、PbAt 事業部と連携する一方、手法や分野を問わず、デプス（深み・奥行き）のあるパブリックなデザインをカタチにしていきます。





施工事例1 地球、そして宇宙へ

世界最先端の技術開発を行っている研究施設の事務棟。従業員が壁面を目にするとたびに、この場所がその業界の中心地であることや、これから無限の可能性が広がっていることを再認識し、来訪者にそれを説明するきっかけになるよう、宇宙の中に浮かぶ地球を表現。
(左ビフォー／右アフター)



施工事例2 近づいて見たくなる建物に

元は、雨漏りのする倉庫でした。全面的に補修しながら、全体を、明るく品のあるカラーリングに変更し、やわらかで開放的な印象のアーチ形の塗り分け面に、近づくにつれて質感が違って見えてくるドットアートを施しました。扉を開けるとロゴがはっきりと見える画期的な仕組みなど、塗装表現以外のデザイン提案もカタチにしました。
(左ビフォー／右アフター)





施工事例 3（屋内）

会社ロゴから広がる

直線と絶妙な角度によって構成された会社ロゴをモノグラムの手法でパターン化して塗装表現したり、同ロゴをモチーフとしたオリジナル数字フォントを作るなどしました。屋内でも、多くの来訪者が目にする空間は、会社の顔となるパブリックな場所であり、アートが効果を発揮します。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9



施工事例 4（屋内）

パブリックファニチャーも

会社エントランスホール。色彩計画に加え、下駄箱もパブリックアートと位置付けてデザインし、扉の隙間から見える靴が人の存在を感じさせる独自の仕組みにより、会社の活気が表現される玄関口になりました。コーポレートカラーを取り入れ、アイデンティティをもって来訪者を明るく迎え入れ、従業員の士気が高まり前向きな気持ちになる空間に生まれ変わりました。（左ビフォー／右アフター）



Pbat

